

Plan Do See

「教師のタイプ」

さみさと小学校 校長 山崎 康樹

教育学博士であり臨床心理士でもある教育カウンセラーの諸富祥彦さんは『子どもよりも親が怖い』（青葉出版社）に、教師には大きく分けて次の4つのタイプがあると書き留めています。

1番目のタイプは、父性と母性が共存している教師で、厳しく接したり、グイグイ引っ張ったりすることができ、また、温かく包み込むこともできるタイプだそうです。いわば、リーダーシップとカウンセリングマインドを兼ね備えた教師です。クラスは、落ち着きがあって、しかも一人一人の子供が生き生きしています。なぜなら、担任の教師が常に一人一人の子供に対して関心を向け、同時に規範をもって彼らを導くからです。そこには集団の団結力もあります。ただし、ある調査によると、このようなスペシャルな教師は、全体の2割程度しかいないということです。残りの8割を占める3つのタイプの教師は、リーダーシップとカウンセリングマインドについて一方しかないか、もしくはどちらももち合わせていない教師だそうです。



2番目は、リーダーシップはあるがカウンセリングマインドがない教師です。厳しさはあるが、温かさのない教師です。子供に対しては常に厳しく接し、些細なことでも叱責し、クラス中がシーンとなってしまいます。しかし、子供の気持ちは分かっているし、楽しさもあります。それで、子供たちにはストレスが溜まっていきます。こういったクラスは、その教師がいる間は静かです。しかし、ストレスが溜まっていきますから他の教師の授業では荒れてしまいます。あるいは、進級やクラス替えなどでその教師から離れると、子供たちの一部が急に荒れ始めます。ある意味で、他の教師に迷惑をかける「人迷惑な先生」といえます。しかし、この教師自身は「オレが受け持っていた時は静かだった。あなたの指導方法がおかしいのではないか」と平気で言う人です。自分に原因があるにもかかわらずです。

3番目は、子供に温かく接することができ、遊び心もありますが、ビシッとすることができない教師です。カウンセリングマインドはあるが、リーダーシップがとれない教師です。若い教師に多くみられるタイプです。3番目の教師は、子供のご機嫌取りに走ってしまいます。ルールをしっかり守らせることができません。しかも、目標も明確に示すことができません。子供の話に熱心に聞くあまり、友達のような教師になってしまいます。

最後の4番目は、リーダーシップもカウンセリングマインドも両方ともない教師です。やる気があるのか無いのか分からない教師です。子供たちに対してビシッと接することもできないし、温かい言葉をかけることもありません。全体の比率から言えば1割ぐらいだそうです。最初にあげたスペシャルな教師と同様、こちらもそれほど多くありません。言い換えると、このタイプの教師は、使命感と情熱がない教師と言えます。教師としては失格です。子供たちのために早く使命感と情熱のある教師に席を譲るべきです。

⇒つづく

上記の各々の教師のタイプを見て、多くの教員が2番や3番のタイプの中に属するように、私自身もその中に位置していたように思います。子供たちへの情熱はあったかと思いますが、自分自身の独り善がりであったり、子供への迎合であったりと、なかなか1番のタイプであるスペシャルな教員にはなれませんでした。長い教員生活を振り返ってみると、全ての面で迷いの連続でした。日々「教える」ということに苦慮していた私に対して、新採時に一緒に組んでいただいた学年主任の先生から、次の言葉を頂いたことを覚えています。「ときとして、厳しさは冷たさにつながり、温かさは甘やかしにつながる。その兼ね合いが難しんだ。子供一人一人に気を配り、学級経営にあたりなさい」また「子供が成人するまでは、その責任の一端は君にあるんだよ」と。今思うと、子供たちに対して慙愧に堪えない毎日でした。「あの時、ほんの少し、進む方向を示してやれば・・・」「あの子の話にもう少し耳を傾けてやれば・・・」退職間近になって改めて思う反省の数々です。

今、多くのベテラン教員の退職に伴い、たくさんの若い教員が教壇に立っています。私の勤務する学校でも教員の平均年齢は、年々若返っています。このような状況を目の当たりにするにつけ、若い先生には、善きにしろ、悪きにしろ、同僚や先輩教員の姿に学び、未来からの使者である子供たちのために、リーダーシップとカウンセリングマインドを兼ね備えたスペシャルな教師になって欲しいと願わずにはられません。去りゆく者の若い教員へのエールと受取って頂ければ幸いです。

ともにがんばりましょう～今年度朝日町の学校に赴任されたみなさん

「朝日町ってすばらしい!!!」 あさひ野小学校 高倉 昌美

♪ さみのやからが ひらきたるここぞよけれと
しょううんこう ♪

これは泊小学校の校歌の出だしです。校歌にこの地の歴史が謳われていることに驚かされました。私の初任はこの泊小学校の1年担任でした。すばらしい諸先輩方に囲まれ、とにかく見よう見真似で必死に学級経営や学習指導法を学んだものでした。

その後、「少年時代」のロケ地になった大家庄小学校へ転任しました。木造の味わい深い校舎でしたが、いたる所に工夫がありました。廊下の窓辺に沿って伸びているビニルの筒。一方から話すと遠く離れた筒のもう一方に声が届く仕組みです。何気ないところにある子供の関心をくすぐるような仕掛けに驚かされました。私は、素直で元気いっぱいの子供たちと過ごすことができ、すてきな思い出ができました。

そして、19年ぶりに朝日町に勤務することになりました。私が朝日町で勤務した学校は、今はなくなってしまいました。果たしてあの頃の雰囲気が残っているか心配していましたが、新幹線が間近に見える以外は変わらない景色と素直で元気いっぱいの子供たちがいました。また、インターネット、電子黒板やiPadを使い、教育機器は確実に進化し、教育効果を上げていると感じます。

どんなに教育機器が発達して便利になっても教育機器は道具です。学習のきっかけは、子供たちの身近にあり、何気なく見聞きしていることにあると思います。それがこの朝日町にはたくさんあるように思います。この歴史と自然に囲まれた朝日町の環境のすばらしさを子供に伝えながら、私自身、そのことを伝えられることに喜びを感じたいと思います。



「教師になろうと思った動機」

朝日中学校 寺田 雄一郎

私が教師になろうと思ったきっかけは、小学校5、6年生のときの担任のK先生との出会いです。たしか私は、K先生に毎日のように立たされ、叱られていました。「困り感のある子供」だったのだと思います。そんな2年間でしたが、私はK先生に感謝をしています。「今の自分があるのは、K先生のおかげだ」と。



自分も教師になり、「道を正す」ために生徒を叱ってきました。「お前のために叱ってやっているんだ」みたいなことを言ってみたり、“よい”生徒（卒業生）に「叱ってくださって、ありがとうございます。」みたいなことを言われた（言わせた）り…。

しかし、振り返ってみると、私のK先生への感謝の気持ちは、「自分のために叱ってくれた」という類のものではなく、「こんな自分も認めてくれた」というものでした。一番印象的だったのは、国語の授業でした。勉強が苦手だった自分が、勉強で唯一周りから認められる瞬間をつくってくださりました。「このときの主人公の気持ちは？」答えの無い発問に、人と違う視点から意見するのが好きでした。テストではからっきしのヤツが、先生や友達から「ほ～、すごい」、「本当は賢いんじゃない？」などと言われました。中学校、高校、大学と、それなりに勉強にしがみついていたのは、このときかすかに芽生えた自尊心のようなもののおかげだと思っています。

私が教師になったのは、「自分に自信が持てない子でも、希望を持ち、たくましく生きる“支え”となるものを育てたい。そのために、生徒の良いところを見付け、引っ張り出し、認め、認められる機会、環境をつくることを大切にしたい」からでした。

“教師になろうと思った動機”は、神戸で勤めた10年間で忘れかけていました。富山に戻った節目となるこの年に、本たよりの寄稿を通して、もう一度、原点に立ち返らせていただきました。

「私ができること」

朝日中学校 吉田 亜沙奈

「朝日町はすごい！」がこの一か月の感想です。最初に驚いたのは、生徒の皆さんの元気のよい挨拶です。緊張しながら初めて朝日中学校に来た日に、たくさんの生徒に大きな声で挨拶をされたのを覚えています。



次に驚いたのは、朝日中学校のアットホームな雰囲気です。朝日中学校は、全校生徒合わせて277人です。大規模校から来た私にとっては、そのことにも驚きでしたが、校長先生も教頭先生も、学年の先生でなくても、生徒の名前や部活を覚えて、細かく声を掛けておられることに驚きました。担任だけでも学年だけでなく、教職員全員で生徒を見守る雰囲気が、朝日中学校の一番の強みだと思います。その中で、自分が担任として何ができるかを、これから考えていきたいと思っています。

私は高校選びに失敗し、暗い高校時代を過ごしました。当時の私は、将来の目標が見付からず、見付けようともしていませんでした。将来の目標が見付からない私は、勉強に身が入らず、好きな部活だけをして、ただただ何となく毎日を過ごしていただけでした。その後、大学へ進学し、やっと将来のことを真剣に考えた際に、高校時代から失敗だらけで、人より何倍も遠回りしてきた自分の人生を振り返りました。そして、これから未来を決める子供たちの少しでも役に立ちたい、と考えて教師になりました。

朝日中学校に来て、慣れないことの方がまだ多いですが、父の母校に来たのも、中学校時代の恩師と一緒に働けるのも何かの縁だと感謝して、子供たちのためにできることをやりたいと思います。

「元気いっぱいの子供たちと」

さみさと小学校 尾山 優稀

朝日町に着任して2か月余り。毎日がどきどき、わくわくの連続でした。通勤途中、登校する子供たちの姿を見かけます。その姿を見ながら、「今日はどんな1日になるのかな」「子供たちのどんな姿が見られるのだろう」と思いながら車を走らせます。学校に着くと、玄関に入るなり「おはようございます!」と自分から挨拶をしてくれる上学年の子供たち。それを聞き付けてやって来た下学年の子供たちからも、負けじと「先生!おはようございます!」と挨拶のシャワーが降ってきます。本校では毎日当たり前になりつつある朝のひとときですが、私は気持ちのよい1日のスタートを肌で感じられるこの瞬間がとても幸せです。



私は今年度、1年生の担任として、子供たちと日々関わっています。子供たちとの学校生活は、目まぐるしくも非常に楽しく充実しています。それは、一人一人が素直に感情を表現し、一生懸命に活動に取り組んでくれるからです。「先生、あのね!」と喋りだすと止まらない子、「今日も給食おいしかったなあ」と満足げな表情の子、「転んで足が痛くなった」と目に涙を浮かべる子、その隣で優しく「大丈夫?保健室行こ!」と友達を思いやる子。ふとした時の子供たちの様々な表情や言葉から、本当に多くのことを学んでいます。思えば私も本校に着任したばかりの1年生です。これから子供たちと小学校生活を描いていく真っ白なキャンバスに、少し色を塗り始めたところでしょうか。

どんな時も真っ直ぐに向かって来てくれる1年生の可愛い子供たちに、これからも一人の教師として真剣に向き合い、関わることで、一人一人のよさを引き出していけるように頑張っていきたいと思えます。また、いつも周りで見守り支えてくださる先生方、地域の方々への感謝の心を忘れず、新しいことにも全力で、そして当たり前のことを当たり前に行えるよう日々努力していきたいと思えます。

「朝日町の学校に赴任して」

朝日中学校 沖田 寛道

この4月より中学校でお世話になっています。初めて来たとき、「環境に恵まれている学校、先生方、生徒の皆さんもイキイキしている学校」という印象を受けました。これまでもいろんな学校を経験させていただきましたが、こうした学校は、そう多くはない、と感じます。大都市のような利便性、目新しさはそれほどないけれど、地方ならではの落ち着いた生活、教育環境が整っていると思えます。驚いたのは、学校に隣設しているサンリーナ、グラウンドが、学校にも開放されていることです。どの部活動にも活動スペースが十分に確保されているので、生徒たちがストレスなく練習できるところが良いです。本当に素晴らしい!



授業を行っている時にも感じるのですが、表情の明るい生徒が多いと感じます。保健体育の授業後や、午後からの授業では、疲れていて、気持ちの緩んだ状態で授業を受ける、というパターンが多いと思うのですが、この学校ではそれが少ないと感じます。普段からの先生方の指導が行き届いていることもあるのですが、この土地の人たちの気質によるところもあると思えます。

英語を教えています。今年、これまでよりさらに「実用的な英語」に力を入れて授業を行っていきたいと考えています。教える相手は大人ではなく中学生なので、その面での配慮は必要ですが、学校の環境が整っている分、工夫できる要素がたくさんあると考えています。「テストのために学習する、だけではない英語」を少しでも学んでもらえるよう、アイデアを具体化し、一つでも二つでも実行していきたいと考えています。

朝日町で仕事を始めてまだ2か月経っていませんが、仕事、私生活共に、一日一日を充実させていきたいです。

読書案内～夏だから本を読もう

「これからの日本では、身分や権力やお金による『階級社会』ではなく『本を読む習慣のある人』と『そうでない人』に二分される『階層社会』がやってくる」そうです。誰もがネットで情報を得られる時代だからこそ「読書は武器」となるそうです。この夏こそ、本を手にとって「理論」「哲学」「教育観」を身につけましょう。



中学校「人の中で人は育つ！」学級環境づくり・仲間作り・キャリアづくり 中学校 学級経営ハンドブック

編著者 鹿嶋 真弓・吉本 恭子 発行 図書文化

本書は、中学1年生・2年生・3年生の1年間に学級で「何を目指したらよいか」「何をしたらよいか」が具体的にまとめてある。

「初任の先生でも失敗しにくいと思われるもの」「多くの生徒が楽しく取り組めるもの」というコンセプトで、学級担任が自らの理想の学級づくりに向け、ヒントとなる実践が「学級づくりカレンダー」として①4月②6月③夏休み前④9月⑤冬休み前⑥2月⑦学期末の7つの時期に分けて取り上げてある。

それぞれの時期毎に「集団のルールや規律が守られ」、「協力し合える人間関係があり」、「お互いが成長し合える」学級に育てるために「環境・約束」「信頼・仲間」「キャリア」の3本の柱に実践例が示してある。それぞれに「やり方」だけでなく「ねらい」「留意点」「これだけは抑えよう！」という考え方・思想の部分まで示されている。

中1・夏休み前「中学校生活のルールやマナーの見直し」、中2・冬休み前「生徒会役員選挙」、中3・2月「全員で受験を乗り切る」など、学年で取り組んだらと思われるものもたくさんあるので、担任だけでなく、学年主任の先生にも手に取ってほしい一冊である。



中学校ストレスマネジメント教育で不登校生徒も変わった！ 人間関係スキルアップワークシート

著者 島田洋徳・坂井秀敏・菅野純・山崎茂雄 発行 学事出版

生徒が「人間関係」につまずくのは自分自身のストレスにうまく対処できないため、ストレス対処方法を知識として学び、練習すれば、対処方法を身につけることができるという。

本書は東京都中野区の「チャレンジスクール（不登校と中退した生徒に再出発の機会を与えるための学校）」都立稔ヶ丘高校で実践されたプログラムのワークシートと展開案である。毎週授業する中で磨き上げてきた本当の意味での「実践的な教材」である。

本書は不登校を経験した生徒のため、できるだけ個人で作業を進めることができるようになっている。年間通しての実施は無理でも、必要な部分を取り上げて実施してほしい。



小・中学校指導案&振り返りシートですぐに実践 グループアプローチで学級の人間関係がもっとよくなる

編著者 東京家政大学教授 相馬 誠一 発行 学事出版

本書は、主に学校の教師等によって行われるグループ・アプローチをまとめている。そのため、グループ・アプローチを、子どもたちの成長発達上の諸問題について支援していく援助サービスの過程上位置づけている。より具体的に実践できるようにすべての課題をコンパクトに、わかりやすくまとめている。

(以上編著者「はじめに」より)

第5章の「グループ・アプローチの実践」は小中学校の実践を通して、「人間関係を育てる」効果があった「25の授業」が載せてある。それぞれに「指導案」「留意点」「ふりかえりシート」があるので、目的に応じて使えるようになっている。どちらかと言えば小学校向きである。



小・中学校学級経営力を高める
教育相談のワザ13
 編著者 会沢 信彦・田邊 昭雄 発行 学事出版

教員の大量交代時代に突入し、30代前半までの教員の割合が増え、10年目ともなると、ミドルリーダーとして重要な役割を担うようになっている。学校には企業等のように、現場に出る前の研修期間はない。採用即ベテラン教師と同じように授業をしなければならない。場合によっては、学級担任を任されることもある。授業と学級経営は若手教員にとって指導の2本柱である。しかし学級経営は大学時代にはほとんど学ぶ機会がないのが現状である。本書は、千葉県子どもと親のサポートセンター教育相談部が作成した『若い先生のための学級づくりハンドブック』をベースに、新人・若手教員を対象に書かれた本である。第1部では、「学級づくりに教育相談を生かす意義」「小学校・中学校における学級づくりのポイント」「いじめ・不登校・発達障害への対応と学級づくり」が述べられている。第6章のなかの「不登校タイプ別チェックリスト」や第7章の「発達障害の定義と担任の対応のポイント」は使える。

第2部では教育相談の理論・技法を活かした学級づくりが述べられている。
 ①「発達課題」②「アドラー心理学」③「応用行動分析」④「ブリーフセラピー」⑤「構成的グループエンカウンター」⑥「ソーシャルスキル教育」⑦「ピアサポート」⑧「アサーション」⑨「アンガーマネジメント」⑩「ストレスマネジメント教育」⑪「Q-U」⑫「アセス」⑬「織物モデル」、それぞれに「定義」と「それを活かした学級づくりのポイント」が述べられている。
 学年主任をはじめとして、若手教員を指導する立場になった中堅教員やベテランの先生も手に取ってほしい。学級経営、生徒指導上の悩みを抱えた若手教員に効果的なアドバイスができ、信頼を寄せられること間違いなし。



小・中学校高校生に語る日本近現代史の最前線
それでも日本人は「戦争」を選んだ
 著者 東京大学文学部教授 加藤 陽子 発行 朝日出版社

日清戦争から太平洋戦争まで、戦争の特徴、戦争が社会に与えた影響など、高校生に講義したものをまとめたもの、「日本はなぜ、圧倒的に国力に差があるアメリカと戦争に踏み切ったのか？」などと問いを投げかけながら授業は進んでいく。歴史は事実の羅列ではない。歴史を知るとは人を知ることである。松岡洋右の意外な実像や「戦争の目的は相手国の憲法を変えること」など、目から鱗、とにかく面白い。



小学校子どもがイキイキ取り組む！
朝の会&帰りの会 アイデア事典
 編著者 静岡教育サークル「シリウス」 発行 明治図書

本書は、「朝の会・帰りの会の充実」をテーマに書かれた本である。静岡教育サークル「シリウス」、藤枝教育サークル「亀の会」のメンバーが実践し、成果を上げてきた「朝の会&帰りの会」のアイデアが載せられている。

「朝の会」も「帰りの会」も1日10分～15分の短い時間なので、「出席確認」「健康観察」「連絡」「先生の話」で終わりがちである。「帰りの会」もマンネリに陥ってしまいがちである。毎日行うことだからこそ、短時間だからこそ、自分の目指す学級に近づけるための工夫をすべきであると著者は言う。「朝の会」の目的は「1日のモチベーションを上げる」、帰りの会は「明日も元気に学校に来るぞという気持ちにする」ことである。そのための方法やアイデアが写真付きで、低学年・中学年・高学年に分けて書かれている。具体的には「健康観察」の方法や「連絡事項の伝え方」「配布物の配り方」「回収物の集め方」などの実践例が書かれてある。

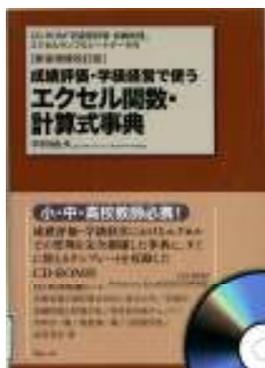
小学校向きに書かれてあるが、むしろ中学校の先生こそ読んで活用してほしい。
 ちなみに「マンネリを打破する朝読書の活性化アイデア」はぜひ活用したいと思った。



小学校学級力がアップする！
教室掲示&レイアウト アイデア事典
 編著者 静岡教育サークル「シリウス」 発行 明治図書

「静岡教育サークルシリウス」のアイデア事典シリーズの一冊。本書には、教室の掲示物やレイアウトのアイデアが、実際の教室の写真とともに集めてある。教室の掲示物やレイアウトは、教師の子供たちに対する思いや姿勢、授業観を映す鏡である。子供たちは、起きている時間のほとんどは学校で過ごし、そのほとんどは教室で過ごす。だから過ごしやすい教室、一人一人が認められる教室であるように、願いを込めて教室の環境作りをしなくてはならない。

「誰が当番か分かり混乱しない給食当番表」、「仕事分担に不公平が起きない掃除当番表」、「顔写真付き自己目標カード」「自画像と切り絵風文字の学級目標」「話し方・聞き方、発表」、「年間予定表」「行事写真コーナー」「いつでも使えるプリント棚」「ファイル収納・管理のポイント」などなど、中学校でも参考になるアイデアが満載である。一度手に取って、気に入れば購入して手元に置くべき一冊である。



小・中学校 小・中・高校教師必携！
成績評価・学級経営で使うエクセル関数・計算式事典
 著者 東京都立杉並工業高校教諭 平出治久 発行 ラピュータ

成績評価や学級経営でよく使うエクセルの関数と計算式を網羅してある。本書を使えば、成績・事務処理作業の速度が格段に速くなる。現役の高校教師が書いた本なので、本書に載っている計算式を使えば、成績評価は難なくできるようになっている。ただし難点を言えば、これからエクセルを使って成績処理を始めようという人には、もう少し丁寧な説明がほしいところだ。

「各学年の観点別評価を5段階の評定に換算する」「観点到重みをつけて評価する」など、一度、自分の中で成績処理をシステム化すれば、計画的に評価の材料もその都度入力できるようになるし、学期末になって焦ることもなくなると思う。

※ エクセルデータを収録したCD-ROMがついているので、今すぐに使える。



小・中学校長野・丸子実業「いじめ自殺事件」教師たちの闘い
モンスターマザー
 著者 福田 ますみ 発行 新潮社

本書は、「丸子実業高校『いじめ自殺事件』」をめぐる母親、その支援者と教師たち、生徒たちの闘いの真相を記録したノンフィクションである。

平成17年12月、長野県御代田町で丸子実業高校に通う、バレー部1年の高山裕太君が自宅で首をつり自殺をした。自殺以前から2度の家出とそのことをきっかけとして、不登校になっていた。母親は、不登校の原因は担任とバレー部のいじめにあるとして、電話・メール・ファックスを使って、県知事、県教委、裕太君の同級生やバレー部員の自宅に、激しい学校・担任批判を繰り返して行く。

その後ターゲットを担任からバレー部へと代え、顧問、部員、保護者に誹謗中傷、嫌がらせをくり返す。そしてあることか校長を「殺人罪」で刑事告訴する。ついに真実を明らかにするためにバレー部、校長、キャプテンと両親が母親とその弁護士を逆告訴し、対決するにいたるのである。そして母親側の主張は一件を除いてすべて退けられる。母親によって、前年にインターハイで準優勝したバレー部が「いじめ、暴力、しごきの伏魔殿」とされたり、遠方から来る生徒のために合宿所で世話をしている献身的な監督が「人を人とも思っていない」教師（監督はとても温厚な方で、生徒思いの先生です）とされたりしていくところは、心底ぞっとさせられる。

今回のような事件が起きると、マスコミをはじめとして、評論家などが一斉に「生徒の自殺＝いじめ＝学校・教師原因説」「学校＝隠蔽」というロジックでステレオタイプに学校・教師を責めたてる。一旦事件が起きると（事故の場合も）当人たちを知らない一般の人たちはもちろん、学校関係者も学校や当の教師に問題があったのではと思いがちである。火の粉は自分に降りかかってから気がつく。対岸の火事とは思わずに本書をぜひ読んでほしい。

主なセンターの事業（6～9月）

- 6月 2日(木) 小中生徒指導研修会①
 6月 3日(金) 特別支援教育研修会①
 6月 9日(木) 研究主任会①
 6月13日(月) 小中高生徒指導連絡協議会①
 6月16日(木) 外国語活動推進委員会②
 6月17日(金) ■小中教育講演会
 講師 岩瀬直樹先生
 6月21日(火) 児童生徒作品展実行委員会①
 7月 1日(金) 学力向上推進委員会①
 7月 2日(土) 魚津地区理科自由研究
 ～10日(日) ・発明くふう参考展
 7月 7日(木) 道徳研修会
 7月12日(火) 情報教育研究調査員会③
 7月13日(火) 郷土教育教材開発研究調査員会③
 7月29日(金) 情報教育研究調査員会④
 8月 1日(月) ■情報教育研修会
 (午前・午後)
 8月 2日(火) ■理科教育講座
 (自然観察入門コース)
 8月 3日(水) ■第1回学校教育運営研修会
 講師 加藤敏久先生
 8月 4日(木) ■授業力アップ研修会
 (仲間に学ぶ)
 8月 5日(金) ■学力向上プログラム研修会
 講師 俵原正仁先生
 8月 8日(月) ■指導力向上講演会
 講師 田中博之先生
 8月 9日(火) ■授業力アップ研修会
 (理科実験講座)
 8月10日(水) ■生徒指導に関する講演会
 講師 大河原美以先生
 8月17日(水) ■第2回学校教育運営研修会
 講師 大橋聡司先生
 8月18日(木) ■郷土を学ぶ研修会(現地研修会)
 8月23日(火) ■小中高教育講演会
 講師 小出 薫先生
 8月26日(月) ■道徳に関する講演会
 講師 永田繁雄先生
 9月24日(土) 児童生徒作品展
 25日(日)
 9月26日(月) 学力向上推進委員会②

■の項目は研修会です



センター運営委員・調査員

□ 朝日町教育センター運営委員

校長会	代表	吉田 尚史
小教研	代表	佐竹 隆太
小中学校	代表	山崎 康樹
教頭会	代表	大野 晴美
教務主任会	代表	大森 敦

□ 郷土教育教材開発研究調査員

あさひ野小学校	大野 晴美(委員長)
朝日中学校	岩崎 将展
あさひ野小学校	大藏 慶子
さみさと小学校	上嶋 沙織
さみさと小学校	鍋島 祥平

□ 情報教育研究調査員

さみさと小学校	内山 真之(委員長)
朝日中学校	廣川 平
朝日中学校	山田 智徳
朝日中学校	山本 賢
あさひ野小学校	中島 亮
さみさと小学校	青嶋 浩
さみさと小学校	松井 和貴子



編集後記

朝日町教育センターには、学級経営、生徒指導のみならず、教育の今日的課題に対応できるたくさんの資料、図書があります。ルーティンワークに追われる日々だと思えますが、日頃の指導のヒントになるものを用意していますので、気軽に電話をするなり、立ち寄るなりして一度手に取ってください。

発行:朝日町教育センター

〒939-0743
 富山県下新川郡朝日町道下1053-1
 TEL (0765)83-0279
 FAX (0765)83-0279
 E-mail asahi-ec@tym.ed.jp
 Webサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>